

臨床研究情報

【研究課題名】

卵巣癌再発後の長期生存に関する多施設後方視的検討

【研究機関】

京都大学医学部附属病院、近畿大学医学部附属病院、静岡県立総合病院、大津赤十字病院、滋賀県立総合病院、長浜赤十字病院、独立行政法人国立病院機構 京都医療センター、京都 桂病院、公益財団法人田附興風会 医学研究所 北野病院、独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター、大阪赤十字病院、大阪府済生会 野江病院、神戸市立医療センター 中央市民病院、兵庫県立尼崎総合医療センター、公益財団法人 天理よろづ相談所病院、日本赤十字社 和歌山医療センター、公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院、高松赤十字病院

【研究責任者】

当院責任者 産婦人科 芦原 隆仁

研究代表者 公立豊岡病院組合立 豊岡病院 産婦人科 住友理浩

【研究の目的】

医学の進歩は著しく、婦人科がんの治療も日進月歩ではありますが、依然卵巣癌は完治が難しい疾患です。特に再発した場合は、完治を目指すことは困難とされています。

卵巣癌が再発した場合、手術や抗がん剤を組み合わせて治療を行いますが、手術は負担が大きい手術になることが多く、手術が選択されない場合も沢山あります。しかし一般に「がん」は抗がん剤だけで完治する事が困難であるとされており、手術を「適切に」選択することが病気の制圧に重要であるとされています。

卵巣癌を発症しその後再発してしまった患者さんにとって、いつ、どの様な手術を、どの様な患者さんに対して行うことがもっとも患者さんの利益になるのか、といったことは依然十分に解明されていません。

そこで、多施設で共同して過去の治療データを解析することで、これらの未解明な問題点を解明する為の疫学研究を行います。

【研究の方法】

・対象

1998年1月から2019年7月までに当院で卵巣癌・卵管癌・腹膜癌として治療された患者さん

・方法

過去の診療記録より得られた情報を利用して、現在まで行われた婦人科癌の診断・治療の評価を行い、そしてより良い診断・治療法を確立し患者さんに還元できるように、疫学研究を行っています。

・利用する情報

患者生年月、病期、病理組織学的所見、治療開始日、治療内容、手術の有無および手術完遂度、再発確認年月、再発部位、再発後治療内容、再発後手術の有無及び手術完遂度、死亡年月、死亡理由

・外部への試料・情報の提供方法

この研究の結果は専門の学会や学術雑誌に発表されることがあります。

【個人情報の取り扱い】

対象者のプライバシーは十分に尊重され、患者さん個人に関する情報(氏名など)が外部に公表されることは一切ありません。

【問い合わせ先】

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

大阪赤十字病院 産婦人科部 芦原 隆仁
〒543-8555 大阪市天王寺区筆ヶ崎町 5-30
TEL 06-6774-5111 FAX 06-6774-5131